



発行

令和6年3月29日
相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

文化財調査・普及員の募集

文化財調査・普及員は市民と行政のパートナーシップによる文化財の保存と活用を図るために発足したボランティアです。

地域班に所属して地域の歴史を学んだり、分野別班や実行委員会などで同じ興味を持った仲間たちと活動することができます。令和5年度現在、64名が登録して活動しています。

令和6年度には、第11期生の新規登録者募集を行います。

目次

・文化財調査・普及員の募集 …	P 1
・古道班の活動について ……	P 2
・田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 活動報告 ……	P 3
・境川沿いの文化財・史跡を巡る (淵野辺～古淵) ……	P 4

【活動内容】

・各地域班での活動

お住いの地域で北部班・南部班・西部班・東部班・東南班・津久井班のいずれかに所属し、月1回程度の定例活動（勉強会、研究報告、文化財施設等の視察、市内文化財パトロールなど）

【以下、有志での活動の一例】

・分野別班での活動

・考古班や地名・古道班での調査、研究など

・教育委員会主催の文化財普及事業にスタッフとして参加

- ・史跡田名向原遺跡公園での解説案内
- ・史跡勝坂遺跡公園での体験学習
- ・古民家園で実施される保存事業や講演会 など

・津久井城跡市民協働調査に市民調査員として参加

・講習会・視察研修、発掘調査、公開事業など

【対 象】

- (1) 郷土の歴史や自然に興味があり、ボランティア活動に取り組む意欲のある方
- (2) 教育委員会が主催する講習会に参加できる方

【登録までの流れ】

8月下旬から10月下旬（予定）に実施する全8回程度の講習会を受講後、参加意欲のある方を登録します。

※講習会は土・日のいずれかに開催します。

【申し込み方法】

広報さがみはら6月15日号のほか、市HP、文化財保護課Instagramをご確認ください。



@SAGA_BUN

活動の一例



文化財の解説案内



イベント運営など



津久井城跡市民協働調査への参加

古道班の活動について

文化財調査・普及員の活動の一つに「古道班」があります。古道と云っても、ほぼ江戸時代の街道です。其処を歩いて如何するの？何が文化財保護活動と関連するの？と思う方がいると思いますが、一寸待って下さい、「道」には歴史が込められています。地域の成立と時間的経過を其の道々の遺物を辿る事で、其の地域と繋がっている周辺との親密な関係性や或いは全く離れた場所との綿密な関係が解かってきます。現地へ行き、実際に歩いて過去の時代に触れるという体験が重要な事と思って活動しています。

前回は「青梅街道」を3年程かけて調査しました。出発は新宿から青梅に向かって歩き出したのですが、コロナの為2年程中断し、再開後は青梅側から新宿に向かう事になりました。

現地集合・現地解散で昼食は「お握り」等で午前10時頃から午後2時頃まで案内人の資料に沿って歩いて道沿いの文化財を巡っていきます。寺や神社等には由来や石仏・石碑等があります。其処で時代の解釈や仏像の種別の判定など古参のメンバーの蘊蓄に納得！モノを知る、知らないとは、こんなに違うのかと勉強になり事前の調査や事後の学習などと道順を間違えないように地図の見方なども自ずと覚えていきます。

其れで「青梅街道」で私が最も強く思ったのは、何で此の街道が重要な道になったのか？と云う原点です。街道には成立する目的があります。物流と人の交流の場として古くから「五街道」がありました。主に江戸時代に整備されたのですが、其の脇街道も近隣の同様な活動を補佐しています。青梅街道は江戸城修築に伴い、現在の青梅市で産出する石灰を元に「漆喰」の原料である消石灰を作って運搬するために造られた道な

のです。石灰岩と多くの木材が産出された事から山里から江戸と云う大消費地に繋がる「道」が出来たのです。江戸には急速に住宅地が整備されたのですが其の事で宿場などが整備されました。水が無く水道として吉祥寺からの旧水道や多摩川からの農業用水が整備されたのですが生活用水が主であり防火用水はなかった為、打ち壊しなどの「火消し制度」で防火・消火活動を行っていたのです。其のため「火事と喧嘩は江戸の華」等と言いはやされたのですが、庶民にとって住まいは長屋などの小さな貸家だったので特に支障は無く、商家にとっては商売の場所や住い、販売品等の全財産が奪われてしまうので、一大事でした。

この様に古道には、曰くや歴史が満載です。それらは決して其の土地だけで無く、此の相模原市の文化財と関連性を内蔵しているのです、其れを持ち帰って本市の文化財保護活動に生かそうと考えてのことです。

さて、今は八王子から横浜に続く「絹の道」を調査中です。此の道は国道16号になってしまっているのです、ほぼ昔の道筋は残っていません。其処を昔の地図などを頼りに歩いて手がかりを見つけています。

八王子という処は嘗ては北条氏が八王子城を築いた場所です。江戸時代には西の防衛地として嘗ての武田の残党を、其の姫を守護する事で「千人同心」として置き、豊臣氏の残党に備えていた場所だったのですが、明治時代に入り「絹」が注目され其の原料となる「生糸」の生産地として重要度が高められたのです。其れを輸出港である横浜へ運ぶ道として整備されたのが「絹の道」であった訳です。当初は歩いて運ぶ道でした。その後鉄道が整備されて今は再開発でほぼ残ってはいないのですが、其の痕跡を訪ねています。(古道班 瀧川)



住吉神社（八王子市片倉町 2475）



慈眼禅寺（八王子市片倉町 944）の六地藏

史跡田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 活動報告

“旧石器ハテナ館まつり” 4年ぶりに開催

コロナ禍がようやく峠を越したことから、令和5年11月3日、4年ぶりに「旧石器ハテナ館まつり」が開催されました。

この「まつり」は、旧石器ハテナ館と史跡田名向原遺跡公園を広く周知し、田名向原遺跡への興味と関心、故郷への愛着を深めることを目的として、「史跡田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会」が主管し、「ハテナ館と地域をつなぐ会」、「土器づくりの会」が協力し開かれたものです。

当日は、「弓矢の射的体験」、「古代服を着てみよ

う」、「火おこし体験」、「古代の魚釣り体験」、「土で作るアクセサリ」、「岩絵具体験」など、旧石器、縄文、弥生各時代の体験や、「昔遊び体験」、「野菜販売」、「自転車での発電体験」、会場内を回ってスタンプを集める「スタンプラリー」なども行われ、好天にも恵まれて、約2,500人の来場者が楽しめました。「こんなに大勢のみなさんが来場されるとは思わなかった」と携わった皆さんが驚くほどの盛況ぶりでした。



縄文人になった気分だ（古代服を着てみよう）



当たるかな（弓矢の射的体験）



ちょっと難しいナ（昔遊び体験 竹馬）

キャラクターの名前「ハテ」くん、「テナ」ちゃんに決まる

ハテナ館の正面入り口で来場者を迎えている二体のキャラクターはこれまで名前がありませんでした。

今回の「旧石器ハテナ館まつり」に合わせて、「広報さがみはら」などで名前を募集したところ61通の応募があり、「まつり」当日の来訪者の投票も合わせ、審査の結果、「ハテ」くん「テナ」ちゃんに決まりました。

名前を付けてくださった星が丘小学校3年の長瀬健人さんには、令和5年12月22日、市教育委員会渡邊教育長から表彰状をお渡しいたしました。

「ハテ」くん、「テナ」ちゃんには、これからも大勢の来館者を迎えてもらうことになりました。

（史跡田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 永山）



ハテくん



テナちゃん



渡邊教育長と長瀬健人さん

境川沿いの文化財・史跡を巡る（淵野辺～古淵）

淵野辺駅北口から野津田車庫行のバスに乗り根岸橋で下車、道を渡り南に進むと右側に居館跡の案内板があり、そこを曲がり上り坂の途中で鎌倉時代の地頭と伝えられる「淵辺義博の居館跡の碑」があります。住宅街の私有地内にあるため分かりづらいですが小高い場所で境川一帯が見渡せたと思われます。

坂を上り南に向かうと下り坂になり途中に「八王子千人同心旧家」の小川家があります。千人同心とは江戸時代に武蔵と甲斐の国の国境警備のために上級農民により結成された集団です。平時には農耕に従事し兵農分離の幕藩体制下では特殊な存在でした。

次に坂を下り南に行く^{こうぶ}と皇武神社です。境内には「おきぬ様信仰」にまつわる蚕守神が祭られています。毎年9月の第一土曜日に祭りが行われ神楽殿の催しと参道には露店が並びにぎわいます。

神社を後に南に進み信号を左に坂を下った次の信号を右に曲がると榎の木があります。この木は「縁切り榎」と呼ばれ、^{もりよしんのう}護良親王の殺害を命ぜられた淵辺義博が親王を哀れに思って助け石巻に逃がしたことで主君の命に背いたとして妻子に害が及ぶことを恐れこの榎の下で縁を切ったと伝えられています。この先の境川に架かる橋は「別れ橋」（現在の中里橋）と言われています。

この先に^{りゅうぞうじ}龍像寺があります。山門の隣に市登録有形文化財の「徳本念仏塔」と少し上った石塀のなかに江戸時代の地頭であった「旗本岡野氏の墓地」があり、市の史跡に登録されています。

龍像寺を出て坂を下り川の手前の路地に入り坂を上りきり下り坂を行くと^{かしま}鹿島神社に出ます。ここには田の神と呼ばれる「カナメ石」があります。村の鎮守様として守られています。

鹿島神社を出て坂を下ると^{だいにちどう}大日堂に出ます。南北朝時代の「井出ノ沢の合戦」の戦死者の供養のために建てられたお堂です。井出ノ沢はお堂の西側に流れていた小沢のことです。お堂の本尊は大日如来で秘仏として信仰されています。ここを出て坂を上ると古淵駅です。（東部班 齋藤）



淵辺義博の居館跡の碑



縁切り榎

